

第2回丹後管内二級河川流域治水協議会を開催しました

流域治水の推進に向け、二級水系における流域治水の取組及び今後の進め方について情報共有を行い、今後、流域治水プロジェクトをとりまとめていくこととなりました。

○開催概要

日時	令和3年6月4日（金） 15:00～16:10
開催形式	Web開催（Zoom）
議事	(1) 流域治水の推進について（経過説明） (2) 流域治水に係るこれまでの動き (3) 二級水系流域治水プロジェクトの推進

○出席者と主な意見

（京丹後市 中山市長）

平成30年豪雨では多くの被害が生じ、どのように防災・減災対策を行うかが課題である。流域治水は、まちづくりとして重要であり、本市にとって望まれる施策である。他の水系についても早急に進められるよう支援願いたい。

（伊根町 吉本町長）

平成29年に氾濫し、甚大な被害を受けた筒川では、府が中心となり整備が進められている。この間、他の河川についても、洪水浸水想定区域が策定された。今後、ハザードマップを作成し、町民への啓発を進めたい。

（与謝野町 山添町長）

平成16年の野田川の氾濫後、京都府の協力のもと整備が進み、面的な被害は低減できた。最近では、住民一人一人に対し、川のことを知ってもらう機会を作ってきた。ハード・ソフトの両面から地域づくりの一環として流域治水に取り組みたい。

（京都府丹後広域振興局地域連携・振興部 水嶋部長）

避難行動を確実にを行うために有効な地域によるタイムラインの作成について、支援など引き続き協力したい。今回策定する流域治水プロジェクトについても、タイムライン作成などソフト面をしっかりと書き込む必要がある。

（京都府丹後広域振興局農林商工部 宮田部長）

防災重点農業用ため池の点検調査、計画的な改修といったハード対策や、府民協働によるため池のハザードマップ作成などソフト対策の両面で取組を進めている。間伐などの森林整備や治山ダムを設置による治山対策を実施している。

（京都府丹後広域振興局建設部 米田部長）

河川改修や堆積土砂対策を実施するほか、防災カメラや水位計等を設置してきた。また、各市町では、洪水浸水想定区域図を活用したハザードマップを住民に周知している。流域治水の取組では、関係機関の連携により治水安全度の向上等につなげたい。

（京都府港湾局港湾企画課 秋田課長(代理出席)）

河口部への土砂堆積が治水安全度を下げ、課題であると考え。堆積土砂撤去は、港湾施設や航路がないと手が出せないため、河川管理者や市町と連携・協力して検討を進めたい。

（京都府建設交通部 富山部長）

水害に強いまちづくりを進めるため、水源地域の管理、ため池の整備などの他、都市計画や住宅政策などと併せて取り組むことで、流域治水への効果発現が期待できる。時間や費用もかかるが、地域の実情を考慮し、市町とも協力し議論していきたい。



協議会の様子

